

大阪国際児童文学振興財団の現在 その1

国際児童文学館との協働（資料と事業）

財団の今後を考えていくために、今号から3回に分けて財団の現状を紹介します。

当財団は設立当初より、旧大阪府立国際児童文学館（現在は大阪府立中央図書館国際児童文学館）の資料を充実させること、その活用を図ること、文化財として後世に残すことが最も重要な役割だと考えてきました。

それは、国際児童文学館の運営を行っていない移転後も大きく変わることはありません。そこで、**資料と事業**に関して、**国際児童文学館**とさまざまに**協働**しています。本題に入る前に、国際児童文学館の資料の特徴について説明させていただきます。

★国際児童文学館の資料の特徴

国際児童文学館の資料は、明治時代から現代までの児童文学・児童文化に関わる資料を収集しており、**世界屈指の量**（約82万点）と**内容**を誇っています。資料には児童書やその研究書、関連雑誌のほか、マンガ雑誌、単行本、紙芝居等も含まれています。国内でここにしかない、という資料も少なくありません。

1984年の開館以降、日本で出版された児童書をすべて集める方針をとり、収集した資料は閲覧に供し、貸出をしていません。函や帯等もそのまま保存し、紫外線をカットするポリプロピレン製のブックカバーで資料を保護しています。カバーをはずせば、紙質、印刷状態がわかるようになっており、すべての資料を**出版文化財として後世に残す**ことをモットーとしています。

1. 資料収集

国際児童文学館の資料収集は、国際児童文学館と当財団が協働で行っています。

新刊児童書の約6割（2019年度は約3300点）を出版社からご寄贈いただいています。出版社は基本的に図書館等へは寄贈されていませんが、国際児童文学館の資料館という役割を理解してくださり、旧国際児童文学館時代から現在まで**当財団への寄贈を継続**していただいています。

そこで毎年、大阪府立図書館を所管する大阪府教育庁地域教育振興課長と当財団理事長が、日本児童図書出版協会の総会で寄贈に対するお礼を申し上げ、継続のお願いをしています。

財団では、寄贈された資料はすべて目を通して一言感想を書き、国際児童文学館と連名で出版社等にお礼状を送付しています。寄贈の受付業務については

現在、大阪府から委託されており、寄贈資料は国際児童文学館に引き継いでいます。寄贈者名は、年1回発行する当財団レポートに掲載させていただいています。

財団の専門知識を生かして古書や洋書、新刊等の収集の支援や、寄贈の申し出があった個人等との連絡も行っています。

2. 資料の価値を伝えるために：展示やイベントを通して

これらの貴重な資料をより多くの人に知ってもらう機会を提供するために、年に一度、国際児童文学館の資料展示の企画に協力し、テーマ設定から資料選択、解説書の作成を行っています。たとえば、2018年11月9日から12月28日まで資料展示「ふしぎの描き方ーあまんきみこ&富安陽子の世界ー」の企画協力を行い、その期間中に当財団主催でお二人を招いた講演会を実施しました。

また、一年の新刊児童書を振り返る新刊紹介のイベントに協力したり、街頭紙芝居（大阪の街頭紙芝居団体から寄贈された約4000巻を所蔵）のイベントを共催したりしています。

以上のように、大阪国際児童文学振興財団は、国際児童文学館の素晴らしい資料という「文化財」を充実・発展させ、多くの人に知ってもらうために、活動をしています。そして、その資料を活用して、子どもの本の文化振興のために、さまざまな活動を行っています。

2020年7月1日

一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 理事・総括専門員 土居 安子

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>

〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北1-2-1 大阪府立中央図書館内

TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
